

日本犯罪社会学会第39回年次大会のお知らせ

(大会概要)

日時:2012年10月27日(土)10時~28日(日)17時30分 会場:一橋大学(東京都国立市)国立西キャンパス本館

参加費: 会員 2,000円・非会員 3,000円 /学生一律(院生含む)1,000円

10月27日(土)10:00~18:00

大会受付:本館2階23番教室

会員控室:22教室

自由報告(10:00~13:00)

自由報告A 26番教室

自由報告B 28番教室

自由報告C 36番教室

自由報告D 38番教室

テーマセッション(14:20~17:20)開場14:00~

A 犯罪不安と刑事司法の信頼(津島昌寛・龍谷大学)

B 家庭裁判所調査官による社会調査のあり方(岡田行雄・熊本大学)

C 性犯罪裁判員裁判の課題 『市民の目線』の与えるインパクトは?(平山真理・白鷗大学)

D 刑の一部執行猶予~制度導入による現場への影響(正木祐史・静岡大学)

10月28日(日)9:30~17:30

大会受付:本館2階23番教室

会員控室22番教室

テーマセッション(9:30~12:30)開場9:10~

E 少年事件の裁判員裁判 何を伝えるのか、何が伝わるのか
(武内謙治・九州大学)

F 少年院法改正と少年院の処遇(横山実・國學院大学)

G 被疑者・被告人となった触法高齢・障害者への支援と処遇
[司法と福祉の連携](浜井浩一・龍谷大学)

H 女性犯罪者の処遇と刑罰の意味(矢野恵美・琉球大学)

シンポジウム(13:50~17:20)21番教室

裁判員制度は刑事司法をどう変えるのか?

パネリスト:加藤学(裁判官)稲川龍也(検察官)神山啓史(弁護士)

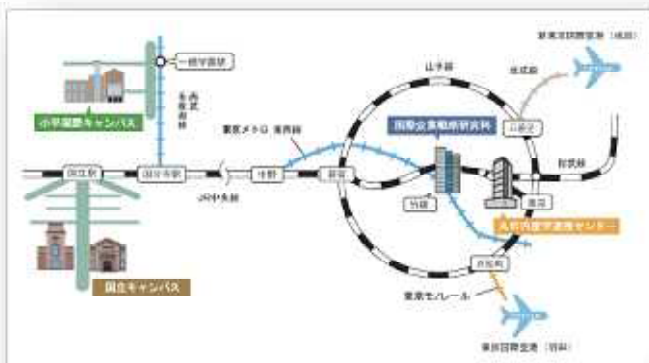
コメンテータ:

白取祐司(北海道大学)土井隆義(筑波大学)浜井浩一(龍谷大学)

総括発言:河合幹雄(桐蔭横浜大学)

コーディネータ:葛野尋之(一橋大学)

会場までの交通機関



構内図



東京駅から中央線(快速)国立駅下車徒歩5分

番より入場し会場は 番の本館2階(受付)

[お問い合わせ先]日本犯罪社会学会 研究委員会 ncs.kenkyu@gmail.com